大宮通信

大宮中学校　学校だより
第98号　2025.11.17

「出す派？」「出さない派？」

今週は水曜日から3日間、期末テストを行います。生徒会の今月の目標は「成績をかけて、期末テストがんばろう」です。みなさん、週末の間にしっかり学習に取り組めたでしょうか。

多目的室Aで開催しているテスト前学習会には、大阪工業大学の学生のみなさんがお手伝いに来てくれています。ていねいに教えてもらえたり、ちょっとした息抜きの会話ができたりして、よい時間になっていることと思います。大学生のみなさんは、将来教員になるための勉強をしています。ぜひ今回の経験を通して、「学校の先生っていい仕事だな」と感じてもらえればうれしいですね。

さて、11月も半ばにさしかかり、2025年も残り1か月半となりました。街中ではクリスマスやおせち料理など、年末年始に向けた広告が多くなってきました。今日はその中から「年賀状」についてお話をします。

みなさんは年賀状を書きますか？ 最近はメールやSNSで新年のあいさつを済ませる人も増えています。また、郵便料金の値上げもあり、「年賀状じまい」をする人も多くなっています。一方で、ふだんあまり会えない人とのつながりを大切にしたいという思いから、年賀状を続けている人もたくさんいます。

年賀状の歴史はとても古く、平安時代に貴族や僧侶が新年を祝う手紙を送り合っていたのが始まりだと言われています。その後、武士のあいだでも年始のあいさつが手紙で交わされ、室町幕府の足利義満や織田信長が送った年始の手紙も今に残っているそうです。

明治時代に入ると、年賀状は一般の人々にも広がりました。元日に配達する制度が始まったのは1899年（明治32年）。ちなみにお年玉付き年賀はがきは、戦後に民間の人が提案したのがきっかけで始まったそうです。

今年からは、日本郵便が「推し活年賀」というサービスも始めました。全国のご当地キャラクターやスポーツチームなどに年賀状を送ることができ、楽しさや返事を受け取るうれしさを感じてもらう企画です。

みなさんは、今年は年賀状を「出す」でしょうか、それとも「出さない」でしょうか。どちらを選ぶにしても、「人と人とのつながりを大切にすること」は変わりませんね。